

## 今後の図書館サービスのあり方検討会（第2回）概要

- 【日時】 令和元年9月27日（金）18時～20時  
【会場】 中野区立中央図書館地下2階セミナールーム  
【出席】 別紙名簿参照（委員11名、事務局2名、傍聴者3名）

\*\*\*\*\*

### 1. あいさつ（子ども・教育政策課長）

第1回については、図書館の現状、23区との比較を踏まえ、委員の皆様にご覧いただき、図書館に対する率直な考えをお聞きした。

今回については、「区立図書館の今後の取組（考え方）」（平成27年4月）の4つの目標、具体的な取組の実施状況等を踏まえ、その過不足や今後の課題の抽出を行いたい。

### 2. 資料説明（事務局）

#### 資料1 「区立図書館の現状と課題」

《主なポイント》

- 資料1は「区立図書館の今後の取組（考え方）」（平成27年4月）の内容を目標ごと、取組ごとに分け、その後の進捗状況と課題を記載したものである。
- 「区立図書館の今後の取組（考え方）」では、以下の4つの目標を上げ、それぞれに10年後の姿、具体的な取組を対応させ、図書館施策の進捗を図ったものである。
  - 目標1 区民の学びと自立を支える課題解決支援型図書館
  - 目標2 家庭、学校、地域と連携・協力し、子どもの読書活動を支援する図書館
  - 目標3 郷土の歴史と特性を活かし、文化を創造・発信する図書館
  - 目標4 良質な区民サービスを提供する図書館
- これに基づき、日常的な図書館運営を充実させるとともに、デジタルアーカイブの展開など、時代のニーズ等を踏まえた具体的な運営をしてきた。また、新図書館、地域開放型学校図書館の整備等についても、この計画に沿って進めてきたものである。
- 一方で、子どもの読書活動については、実施回数、参加者とも横ばいであり、また「まちづくりに合わせたビジネスマン等向け資料」についても十分とは言えず、今後の重点の置き方を考える必要を感じている。

#### 資料2 「23区比較表（区面積-図書館数）」

《主なポイント》

- 第1回で依頼された資料。

- 中野区は面積割りで 23 区中 10 位と、ほぼ中位である。

### 資料 3 「利用者満足度調査/利用者アンケートから」

《主なポイント》

- 平成 20 年度から実施している利用者満足度調査（平成 30 年度利用者アンケート）に基づく資料である。
- 職員対応等の満足度については、90%以上であり、ほぼ変わらず推移している。蔵書満足については、過去の資料がなく比較しがたいが、満足度はそれほど高くはない。
- 平成 30 年度利用者アンケートの自由意見では、蔵書に関しては否定的な意見も多いが、施設に関しては好意的な意見もある。

### 3. 意見交換

- 「区立図書館の今後の取組(考え方)」から 5 年が経過しており、今回の検討会で改めて 10 年後の姿、取組を見直し、基本計画に盛り込むということか。  
→ 中野東中学校等複合施設内図書館（以下、「新図書館」）の開設、地域開放型学校図書館の展開等の課題、今までの運営の評価を踏まえ、現行計画を見直していくということだと考えている。
- 図書館を利用した際に感じることだが、職員は利用者目線でものを見ているのかという疑問がある。職員自身、利用者になったつもりでパソコンの検索を行う、館内を歩いてみる、また子どもの高さで見てみるなど日常的な検証が大切だと思う。
- 現在の進捗状況の評価、課題として考えていることを四つの目標の優先順位も踏まえ聞きたい。  
→ 課題解決支援型図書館が基本であり、同時に図書館から住民等へのアプローチをより促進する必要があると考えている。また、児童書の貸出しが少ない、子どもの読書活動の支援が十分とは言えないことなどは、課題だと考えており、ブックスタート事業の検討などについても行っている。その他地域資料の収集等の基本的なサービスについては、一定程度できていると考えている。
- 地域図書館の配置の見直し等の記述のある目標 4「良質な区民サービスを提供する図書館」の部分が一番重要だと感じる。個人的にも、この検討会で一番検討したい内容である。本町図書館と東中野図書館を新図書館に統合するという計画について、区長はどう考えているのか。昨年、区長が本町図書館を視察したときに、この検討会で図書館全体の配置を考えると一言していた。
- 中野区の図書館配置は半径 800 メートルを基準に配置していると聞いたことがある。配置の偏りはあるが概ね満たされており、この点は誇れることだと思う。
- 17 万冊規模の新図書館、20 万冊規模の鷺宮新図書館を建設するとのことだが、現行

の50万冊規模の中央図書館、6～7万冊規模の地域図書館という配置は維持して欲しい。本町図書館、東中野図書館の例を考えると、鷺宮新図書館の建設の際に、近くの江古田図書館、上高田図書館を廃止するということがおきないか心配である。現在のニーズを踏まえ、27年度計画を見直すのであれば、地域図書館の数を確保することが大切だと思う。

- 中学校区に1図書館の配置が良いように感じる。区内中学校は10校であるので、図書館も10館。本町図書館が廃館になると、弥生町1丁目や本町5・6丁目が800m圏内ではなくなる。新宿や渋谷の図書館も近いが、800m以上になる。その意味でも、8館から9館体制として本町図書館、東中野図書館は存続するべきだと思う。
- 個人的には、理想の配置は10館で、大和町や鍋横にも図書館があったほうが良い。
- 本町図書館は団体登録が多く、保育園や学校への団体貸出も区内で一番多い。保育園児も散歩の際に立ち寄っている。本町図書館が廃館になり新図書館ができた場合に、新図書館に行くかどうかのアンケートをしたみたが、園児の足では遠すぎていけないという回答であった。身近に5万冊規模の図書館があるということが大切であるので、本町図書館は残してほしい。資料3で紹介のあった利用者アンケートについても、その他の欄に本町図書館、東中野図書館を残して欲しいという意見が31件あった。
- 障害があることは、移動が困難になるということである。蔵書もたくさんあり立派だが遠い図書館よりも、蔵書が無くても、のんびり自分の居場所として利用できる場が近くにあるほうがいい。2館の廃館ありきで考えているのであれば、検討会も開いていることだし、再考してほしい。
- 図書館は地域にあるということが大切である。本町図書館、東中野図書館、鷺宮新図書館については、地域の利用者の声を反映してほしい。
- 専門的な蔵書がたくさんある図書館を目指すのであれば、小さい図書館を統合してより大きな図書館をつくることは合理的だと思う。ただ、個人的には、地域の人に身近な存在として、図書館を配置してほしい。専門書に関しては、距離的な問題はあっても、都心の大きな図書館に行けばある。子ども、高齢者や障害者の方が行きやすいというのは、大事なことだと思うので廃館はしないでほしい。
- ある市の調査では、小学生の行動範囲は200m、中学生は400mであり、子どもへの読書活動支援としては、200m程度で児童館なども含む、本にふれあえる場所があることは重要だと考える。
- 小さい子どもを連れて行くためには、図書館は身近な場所にあった方がいい。ちなみに、地域開放型学校図書館は、乳幼児に向けた施設と考えて良いのか。  
→ 区立図書館の分館として、本の貸し借りができるとともに、乳幼児親子が読み聞かせ等もできるスペースがあり、身近なことでは多くの人に利用してもらえと思う。ただし、面積的には制約があるため、運営上考慮すべき点は相当あると考えている。

- 子どもは走り回りたいし、声を出すので、学校の防音設備などが気がりである。地域開放型学校図書館は、乳幼児や高齢者にはいいかもしれないが、学校が好きではない子どもも一定数はいる。児童館が無くなり、キッズ・プラザも学校に入り、図書館も学校へとなると、学校が苦手な子の行き場が無くなる。また、誰でも入れてしまうということは不安である。誰が来ても拒めない。転出入も多い中野区では、セキュリティ対策もが難しいと思うので、再度検討してほしい。
- 個人的なイメージでは、図書館は本を借りるところ、読んだり、調べたりするスペースを使えるところ。本を借りるといっただけでみれば、勤労者などを考えると、駅前等の便利な場所のほうが良いようにも思える。また、地域開放型学校図書館を整備するのであれば、館数は増加するし、本の受け渡しに区民活動センターなども活用すれば、今以上に利便性の高いサービスが可能となる。
- 本を借りるにあたっては、実物を見なくとも、アマゾンや他のネット情報でも相当の情報を得ることができるため、そこで興味をもてば、図書館で予約するということが可能である。
- 区外で働く勤労者などには、図書館は駅近くにあった方が便利であり、地域にあることの必要性には疑問がある。ふだん公共交通機関を利用する人にとっては、駅などへの通り道にあるのがベストだと思う。使う人によって配置というのは変わってくるのではないかな。
- スペースとしての図書館ということであれば、お茶を飲みながら本を読むことが出来る場所が望ましいと思う。現状では難しいかもしれないが、実現出来れば、心豊かなスペースになると思う。
- 集う場所が図書館でなければならないという理由には疑問を感じる。例えば、子育てひろばに図書館員が出張して、本の読み聞かせや紹介をしてもいいのではないかな。
- 小学校に地域開放型学校図書館を整備することに反対ということではないが、セキュリティ面という課題はあるだろうと思っている。また、学校の中の施設というのは、児童が下校した後も、子どもたちのためにより活用できればいいと考えている。
- 図書館との距離については、小学校としては、見学や体験ができる距離に図書館があると良いと思う。また、近い方が団体貸出の面でも利用しやすくなる。学校や区の歴史を調べられる資料があることが望ましいと思う。
- 在宅配送サービスについては、図書館がここまでサービスするのかと驚いた。利用対象者の要件はどうなっているのか。
  - ①身体障害者手帳（1～3級）をお持ちの図書館に来館することが困難な方、②身体的な理由により来館が困難な65歳以上の方。なお、これとは別に自宅又は職場に配送する有料宅配サービス（1配送800円）も行っている。
- 有料宅配サービスの利用には別途登録が必須なのか。また、その際に本人は必ず来

館しなければいけないのか。

→ 本人の来館が難しい場合には、代理人（要委任状）でも手続きができる。

- 最近の高齢者の学習意欲は高まっている。友愛クラブ連合会で老人大学を開催しているが、開催ごとに参加者は増加している。なかのゼロの小ホールで行っていたが、600～700名を超える申し込みとなったため、名称を「シニア大学」に変え、会場も1000人程度入る大ホールに変更した。昨年6月の初回には1020名の参加があり、その後も平均700～800名の参加があった。しかし、シニア大学に来れない方に、例えば図書館の巡回サービスなどがあれば、遠くまで歩行が難しくても、現物を見て借りることができる。新図書館もよいが、このようなことも考えて欲しい。
- 先ほど、登録者数が少ないという話があったが、千代田区では利用登録を日本国内にいる方は誰でも行え、2年間の有効期間である。中野区は1年間で、在住者（在勤・在学）、近隣区の居住者となっているので、その辺を見直せば登録が増えるのではないか。
- 新図書館7階の子ども・子育て支援フロアの対象は小さい子やティーンとあるが、あまり限定せずに広く子どものための図書館の方が良いのではないか。
- 図書館の他団体との連携については、中野区では子ども食堂なども盛んであり、そちらとの連携も模索してはどうか。
- 新図書館9階のビジネス支援フロアについて、ニーズはあるかもしれないが、用途は限定しない方が良いのではないか。
- 新図書館については、子ども・子育て世帯、障害者、高齢者、地域の人、司書で運営協議会のようなものをつくって、定期的に運営について話し合ったらどうか。そして、話し合ったことを活かせるように、実務担当者や指定管理者にある程度の権限があるといいと思う。
- 昨年、中野区から新図書館等の運営計画作成を委託された未来創造プロジェクトが、アンケート、インタビューや先行自治体の視察などを行った。その中で、武雄市の図書館（TSUTAYAが指定管理）が良いという意見が結構あった。今日も、コーヒーなんか飲める場所があれば良いという話があった。カフェがあって本が読めるということだが、図書館は無料で本を読めるところなので、中野区ではその点に配慮し、おしゃれなものは代官山に任せれば良い。
- 新図書館は子どもたちが来るからにぎやかになるので、計画通り、階を分けることで良いと思うが、アンケートを見ると中高生が静かに勉強できると良いという意見があり、おしゃれなものだけではなく、実用的なものも大切ではないかと思う。その意味で、住宅地の中に紛れるようにある地域図書館の必要性も高いと思う。
- 今年、読書バリアフリー法（視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）が制定された。これを踏まえ、図書館利用がスムーズになってくるのではないかと思う。この法律の中では、視覚障害者という表現はどこにも無く、読書困難者という言い

回しになっている。この読書困難者には明確な線引きはなく、身体障害者手帳を持っていなくても、医師からの診断書があれば、デイジー図書を借りることが出来る。今後の中野区の図書館運営の中で、読書困難者の門戸を広くすることを考えてほしい。

- 自動貸出機などで、職員の手を介さずに借りることができるという話があった。視覚障害者だけの目線から申し上げると、最近バリアフリーと呼ばれているが、バリアがどんどん出来ているという感じがする。スマホ、銀行や病院などすべて画面表示や画面タッチで、一人では使うことができない。今後図書館で導入されるようであれば、視覚障害者にも使えるような配慮をしてもらいたいと強く希望する。
- ブックスタートについては、母子手帳の交付時に、ブックリストの配布を依頼しているだけと聞いている。絵本そのものを配布できなくても、司書が直接リストを配布するほうが良いと思う。
- アウトリーチという面では、現状の図書館は外部の子ども施設側から動かないと動かないようだ。ブックトークなども、児童館やすこやか福祉センターにどんどん行ってはどうか。そういった機会を増やせば、地域開放型学校図書館を整備しなくても良いのではないかと。
- メディア教育の活動の支援を行っているNPOのなかには、ある教育的取り組みをしているというような案内を積極的にしているところもある。メディア教育の一つの例だと、コストはかかるが、はがきのようなもので、私たちはこういうことをやっているけれども、と希望を募って、希望者がいる場合は行うといった形もある。段階があると思うが、今よりもできることがあるのではないかと。
- アウトリーチに関しては、子育てひろばに図書館員が出向いて、絵本の読み聞かせやブックトークをしていく。また、絵本の団体貸出ということで、児童館や子育てひろばにまとまった冊数の絵本などを長期間貸し出すことも考えられる。
- ブックスタートの場合、ほぼ全員が受け取ることが出来るということは、すごく重要であると思う。対個人と同時に、対施設への働きかけを行うなど、個人への働きかけは場が限られるので、より働きかけの自由度が高い施設でのサービスにも目を向けることが大切である。